香川の野鳥ファイル No. 10 アカツクシガモ

今回は昨年の初冬から渡来しているアカツクシガモを紹介します。

アカツクシガモ　*Tadorna ferruginea*

数少ない冬鳥として日本各地に渡来するが、中国地方以西の記録が多い(※1)。

香川県では70年代には3件、72年12月3日の高松市小田池、75年11～12月と79年11月に高瀬町国市池(及び勝田池)の記録がある(※2)。80年代は渡来せず、92年10月26日に高松市平田池で1羽(♀?)を発見。これは後日長尾町(現さぬき市)野間池へ移動し、越冬した(93年3月の記録あり)(※3)。

その後2003年11月29日、観音寺市柞田川河口に1羽が渡来(※3)。こちらも越冬し、今も滞在している(3.18現在)。なお、この個体は翌04年3月には首の黒線が顕著になったことから、♂と思われる。

以上のように少なくとも過去5回渡来しているが、近年は約 10 年に1度くらいしか渡来しない、ごく稀な迷鳥である。ただ渡来すれば、今後も越冬する可能性も少なくないと言える。

※1･･･「日本の鳥５５０　水辺の鳥」，桐原政志，2000，文一総合出版
※2･･･「四国の野鳥誌」，石原保，1982，築地書館
※3･･･「かいつぶり」，No.107･108･112･239･240，日本野鳥の会香川県支部

アカツクシガモ観察記

古市　幸士

11月29日の夕方、「柞田川河口でアカツクシガモを見た」という情報を得て、30日の朝から急いで出かけました。河口にはすでに野鳥の会の方達が集まっていましたが、肝心のアカツクシガモの姿はありません。残念ながらその日は探し回るも会えずじまいで帰宅しました。後で聞いた話ですが、三豊干拓内の水を張った田に夕方入っていたそうです。

12月1日、仕事を終えて再び干拓に行きました。いました、やっと会えました。夕方の弱い光のなかでオレンジのからだとクリーム色の頭と首が目立ちます。水を張った小さな田の中、たった一羽で採餌していました。動物園で同じ鳥を間近に見ていましたが自然の状態で見るとまったく別ものです。思ったより大きく感じて感動しました。

年が明け、その後アカツクシガモの情報もなく、もう帰ったものと思っていた3月6日、柞田川河口で観察をしていると田の中にオレンジのカモを発見。ひょっこり上げたクリーム色の顔を見て思わず「おまえまだいたのか？」と声がでてしまいました。忙しく何か探して食べています。ときどき溝に入ってしばらく姿が消えるので溝の中でも何か餌になるものがあるようです。40分ほどして満腹したのか、あぜ道に上がった彼は座って眠ってしまいました。「彼」と呼ぶ理由は、1週間後の3月13日の「香川の野鳥を守る会」の仲間との探鳥ではっきりし始めた首の黒いリング(アカツクシガモの雄は夏羽に喚羽が進むと首に黒いリングが現れる)を確認できたためです。

▲3月１３日、首の黒いリングが見える

この日はマガモやカルガモと並んで泳ぐ姿も見ることが出来ましたが、体が大きいためか他のカモに比べて高く浮いているように見えます。しかし、遠く離れてしまうとこれだけ派手な鳥であっても目立つところはなく、肉眼では気づかないかもしれないなという気がしました。また、以前マガンが渡来した折りに移動する先々でカラスに散々に攻撃されていたのを思い出し、滞在中の苦労を思ったのですが、たくさんのカラスがいる中で意外にもゆったり過ごしているのに驚きました。カラスにとってはどちらも新参者、どこがちがうのでしょうか。

多くの冬鳥が帰途につくなか、長くいてくれるのはうれしいのですが、今度は無事帰れるかどうか心配になってきてしまいます。